コオイムシ

Appasus japonicus (Vuillefroy)

カメムシ目コオイムシ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由

全国的に普通種であったが、激減した地域が多い。県内では２地域で生息が確認されているのみであり、その生息地も開発や生息環境の悪化が危惧される。

形　　態

成虫は体長17～20㎜。体型は扁平な楕円形で、淡褐色～黄褐色。前脚跗節は捕獲脚で鎌状に発達し、中脚、後脚は遊泳脚で長い剛毛が生える。腹端の伸縮できる短い呼吸管を水面に出し呼吸する。同属のオオコオイムシとの正確な同定にはオス交尾器の検討が必要である。

国内分布

北海道、本州、隠岐島、四国、九州に分布する。

県内分布

かつての分布状況は不明であるが、七尾市、旧能登島町、珠洲市において局所的に分布する。

生　　態

成虫５～６月頃にメスがオスの背面に卵塊を産みつけ、オスは孵化するまで約１ヶ月間、卵塊を保護する。産卵は数回行われる。ヤゴなどの水生昆虫や、オタマジャクシ、カエル幼体、小魚、巻貝などを捕らえ体液を吸う。水辺の枯れ草や石の下などで越冬する。

生息地の条件

平野部の水草が豊富な、比較的水深がある、池沼、放棄水田などの開放的な水域に生息する。

生存の危機

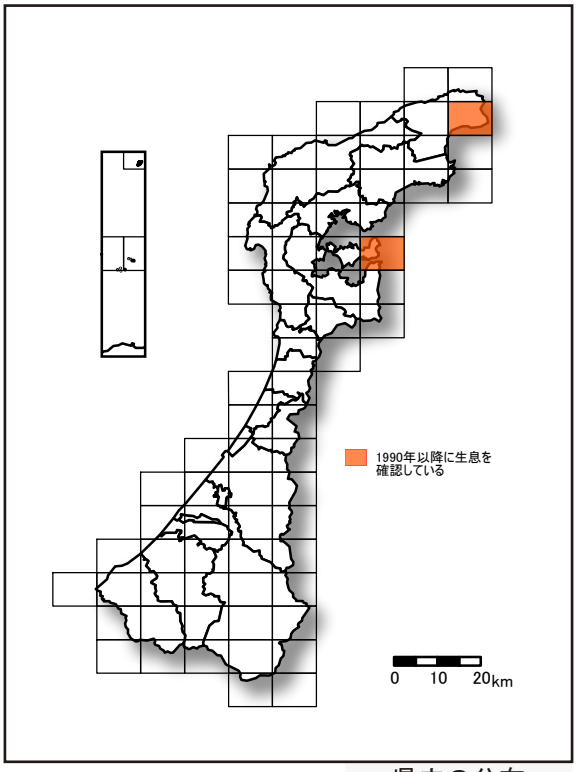
池沼の開発、水質汚染、放棄水田の植生遷移、アメリカザリガニなどの外来種の侵入が脅威である。とくに1950年代の農薬使用は本種を激減させたと考えられる。ため池の維持、管理の継続や放棄水田の湛水化が保全上重要である。七尾市ではＬＰガス基地建設によって生息地の大部分が破壊され、個体数は激減したため、放棄水田の湛水化、新たな水域の創出が必要である。（A, B, C）

参考文献

Okada, H. and Nakasuji, F. 1993. Comparative-studies on the seasonal occurrence, nymphal development and food menu in ２giant water bugs, *diplonychus-japonicus* VUILLEFROY and *diplonychus-major* ESAKI (Hemiptera, Belostomatidae). Researches on population ecology, 35(１):15-22.

市川憲平 1996. コオイムシ類の繁殖生態（特集 子供の世話をする昆虫）. 昆虫と自然, 31（11）：８-11.

標本提供者：富沢章



県内の分布